

昭和二十六年

自青月一日

五月十一日

福光

疎開

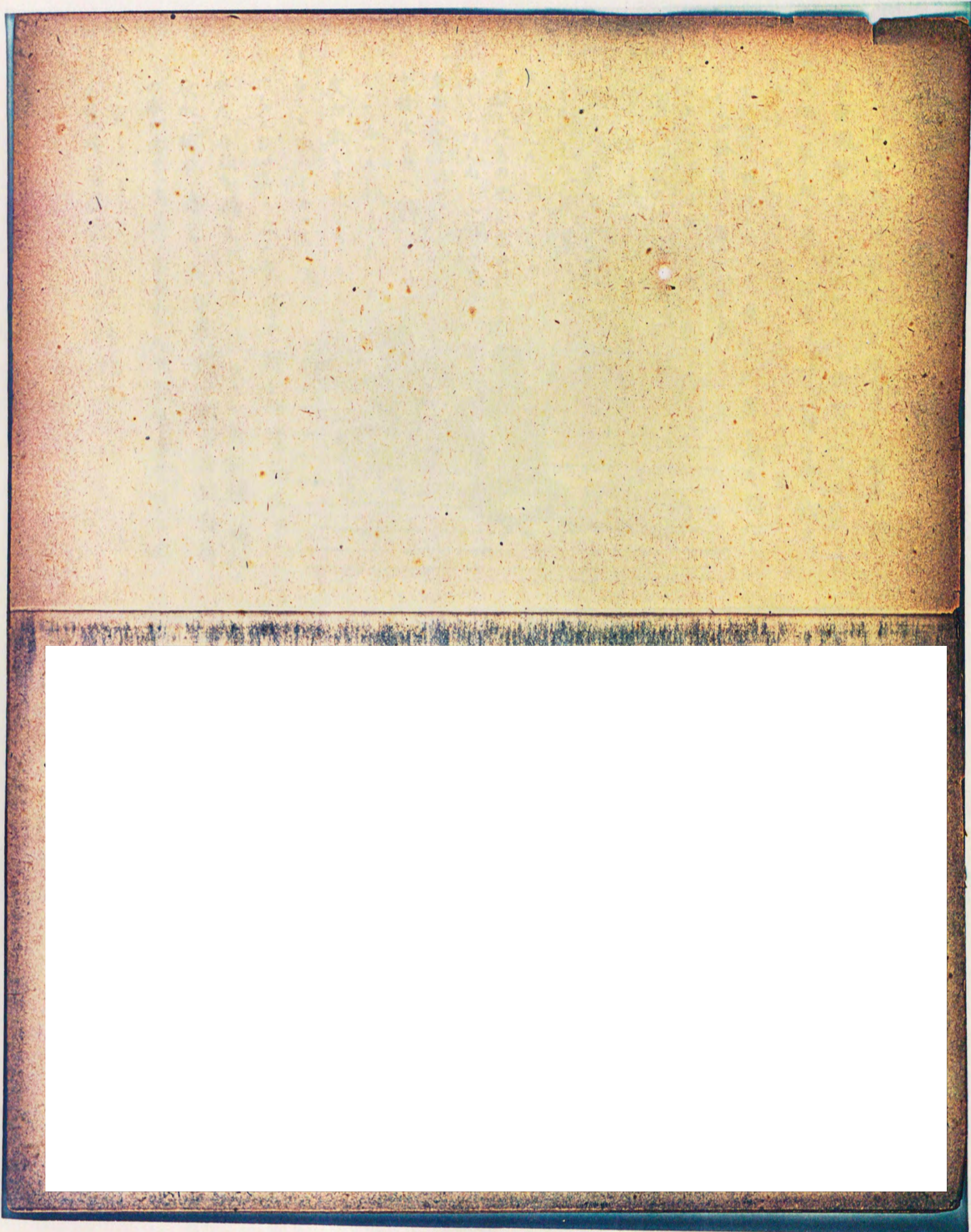
園

日誌

輯四

東京女子高等師範學校  
附屬國民學校

三都五斗



十一月四日

(日曜日)

曇晴時々雨

河野

今日は先生方だけで庄川のだもいらつしやるので、ふつより早く六時に起床した。朝食に行く時、薪を持って行った。朝會の前に、よ助先生が富山縣西礪波郡福光町といふ名前はなせ出来たかお話して下さった。尤時ころから、さんぽした。ぬこの方へ行った。そして、廣若宮神社(おまぬりして休んだ。すると、東の方にルプスが見えた。雪がつも日があたると、とてもきれいりは、さっきとちがふ道を通った。廣瀬村の國民學校の前を通り、前に、ぼたる取りをしたあたりへ出て歸った。午後は、川原へ、さかすきをを作るメノールを取りに行った。土手へ出ると、急に雨が降り出した。すぐ學校へもどった。雨がやんでから、並んで寮へ自習の道具を取りに行った。そして、せいほう室で日記を書いたり、本を読んだりした。三時ごろから、柿やお菓子をたべた。夕食後の掃除はやらなかつた。そのうち、雨が降り出した。古藤君が、ぼくたちのかさを寮へ行って持ってきてくれた。歸つてからは、本を読んだり、ランプをしたりした。八時すぎに、森君が歸るのでおわかれをした。八時半になっても、先生方はおかへりになら



王山のふも 瀬村の 十分間 日本ア って、ぬて だ。歸 通て行

ないので、ぼくたちだけで点呼をしてねた。ぬて、少せのすると、先生方がお歸りになった。今日、ぼくに、葉書が来た。中に、十日ごろに、ぼくをむかひに行くを書いて、あったので、楽しみになった。

十一月五日 (月曜日)

曇

古藤

今日は、第三日目の授業がありました。朝食前に、西尾寮から、薪を運びました。七本づつなので、とても、軽かったです。一時、間は、國語で、水兵の母をしらべました。二時間は習字で、エ夫力作宛を羽書ひました。久しぶりな下手になやうに思は

目 成 た 成 た 目  
エ 夫 力 作 宛  
成 宛 成 宛

れたので、三時間目は、日記を書きました。四時間目は、地理で、阿蘇山をしらべました。東西十八キロ、南北二十四キロといふ大火山には、とても、びっくりしました。午後は寮へ歸り、本を読んだりしました。夕食後、寮へ歸つてから、柿を一箇半食べました。とても、あまりおいしい柿でした。

夜、停電になつて困つてしまひました。僕  
は、電氣の有がたごをしみじみと思ひま  
した。

十一月八日（木曜日）

曇雨あられ守口

今日から冬です。氣のせいかもしれませんが、寒いのでした。醫王山を見ると上の方にところどころ雪がつもつておりました。午前十五の所からまきを運びました。私たちは國民學校の荷車を運びました。途中あらり出したのでまき屋さんの

隊で戦死



お方らしいでした。この方は日勝たせやうと思つて行か

たの本を派など見がな攻持ん子きた家かか僕

は本田寮へいってんしました。午後は寮へ歸へつて日記をつけたりしました。時三十分は英靈がつくのでおむらに行きました。夕食はお芋御飯で

十一月十二日

(月曜日)

晴曇

河野

今日から、ふとんをつむ場所をかへていた。かみぶ  
まさつは、ふとんをたたむ前にやめた。授業は、第一日目  
だった。一時間目の凶工は、自習

た。日記を書いた。二時間  
目の地理は、『九州とその島  
島の』神代をしのぶ南九  
州山をした。かご島縣の  
さつまいものたくさん取れ  
る事、牛がたくさんぬる事、  
金、銀、銅、筆が取れる事



筆をならった。三時間目の算

数も、四時間目の科擧班の理科も自習だったので  
図書館の本を讀んだり、新聞を讀んだりした。掃  
除は、晝食後、寮へ歸る前にやった。科擧班の理  
科はやらなかつた。三時頃から、銭湯へ行った。人參  
湯へ行った。とてもこんでゐた。お湯につかると  
芋を洗ふやうだった。ぞもとてもいい氣持だった。阿  
部先生や阿久沢先生もはいていらつた。歸るから

は、本を讀んだり、トランプをしたりした。

十一月十三日

(火曜日)

晴

古後

朝、起きて見るととても寒かつた。外には霜  
が一つぱいおりていた。薪を運ぶ時手がかじ  
かんでとてもつらかつた。今日は寮ごとにとこへ  
行つてもよい行軍だつた。僕達は午前中九  
時四分の汽車で重富君が東

る事になつたので送りに行  
たが汽車に

くれてしま

たせりて

がなく寮

りました

で西尾さ

たつへあ

したとて

かいでし

はさんが

を作つて

しやつた

手つたひを

した。十一時ごろおべんたうをつめて、五

野ヶ原へ行きまゐりました。今日はお汁もがはるが

はなかついで持つて行きました。僕は、荒木君

と一つしよにかつまゐりました。とても重いでした。



京へ歸

ままし

乗りお

ひまし

かた

へ歸へ

寒いの

んこの

たりま

も暖

たを

干柿

いらつ

のでお

しま

この前の時よりすこし向かふへ行つて晝食を  
 食べました。とてもおもしろい。晝食後は、自  
 由でした。僕は晝寝をいたしました。青空の下で  
 先生のいらつしやるまで、みんな元気に遊びま  
 した。三時半ごろ、先生がいらつしやつたので歸  
 ることになりました。歸る時はほんくーたり  
 マカーを引いて行きまゝ、學校へつくとす  
 ぐ夕食になりました。食後に柿がありま  
 した。とてもおいしいです。  
 寮へ歸ると、西尾さんがお風呂をたてて下  
 こましたので、寝るにはいりませんでした。さ  
 芋のふかしたのも、下さりました。とてもあま  
 りです。

十一月十五日（木曜日） 雨 守口  
 今日は一時間目に休重をいまして、  
 僕はぜんねんにも一キロへつてしまひまし  
 た。國語の時、給むらの火を終りました。  
 五兵衛さんはえらひなあつとつくづと思  
 ひました。僕も五兵衛さんみたいな働をし  
 たいなあと思ひま  
 地理の時間九州  
 とその島々をな  
 らひました。この島  
 々をばなさなけれ  
 ばならないと思ふと  
 りません。でした。晝お父様から手紙が來  
 ました。それに、自ぜん車を買つてくださる  
 と書いてあつたので、もういじでした。  
 午後返事を書いたり、地理をしました。と  
 も六ヶ敷でした。夕食はお芋の代用食で  
 ちが、おいしゅうございました。夜歸へつて見ると、火は  
 した。机で作つたので、とても大きくなり  
 ました。をば、様もいらつしやつて、まあ大  
 きなこたつです。ねえ、といつて、わらつていら  
 っしやいました。とても暖いでした。



十一月十九日

(月曜日)

晴後曇

河野

今日は休養日だった。朝、シャツとパンツを着が  
た。新しいシャツを着ると、始めはともつめたかった。  
朝食後、西尾寮だけて、

神社の境  
は赤くてとても  
た。畑道を通  
達の大根畑へ  
かの大根畑へ  
大きくて、根が  
てぬるのを見  
つけが七、八セ  
あるのに、ぼく達  
生は「根がまたこやしにとどかないのだ」とおっしゃった。  
ずとまはって、波多製作所の前を通過して、福光城の  
あとといふ所を見てから、寮へ歸った。そして日記を

内のもみぢ  
きれいだっ  
って、ぼく  
行った。ほ  
はとても  
とび出し  
ると、ちよ  
ん千位のも  
とても小さい。先  
のぼく達





書いた。午後も寮へ歸った。いい天気なので、屋根  
 (出て日にあたりながら本を讀んだ。倉庫に干  
 ておいたこと芋の莖がさりかけて来たので先生  
 方がよく日のあたるのき下(おうつし)になった。  
 みんなで日光浴をしてゐると、秋葉のおかあさんが  
 いらつした。そして、かんぱんをセゴつた。とて  
 もおいしかった。その後は、あまり日があたらなくな  
 ったので部屋の中へはいつて本を讀んだ。夕食後  
 歸つてから、いつものやうにこたつを作つてあつた。  
 とても暖かくて、長くはいつてゐると汗が出て来る  
 くらいだった。ぼくのふんは、晝間干したので、ふ  
 わふわしていい氣持だった。

十一月二十日 (火曜日) 晴 古藤



今日  
 はを  
 また  
 昨の  
 方へ  
 行軍  
 に行  
 事にな  
 りまし  
 た。それ  
 でおべ  
 のるん  
 の

たうを持つて九時  
 出發しました。薪屋  
 杉浦さんの所を通

つて、くわ山へ行く道とはん對の道を通りまし  
 た。どの家も、柿が干してあつて、とても、それい  
 に見えませんでした。天氣がよいので僕は、四方を見  
 ながら行きました。遠くの山もはつきり見え  
 ました。登道になると、道がだんだん、悪くな  
 づつ、困つてしまひました。まがりまがった所を  
 通ると、廣い平らな場所に出ました。そこで  
 寮とくに自由になりました。宮地先生から、飛  
 驒山脈のせつめいがありました。終つてから僕  
 達は、鳥山へ、鳥を取る所を見學に行きま  
 した。霞網にアツ鳥がかつていました。石切り  
 場も、見に行きました。おぢいさんが一生けんめ  
 い石を取つていました。もう十メートルぐら  
 い平地から下になつていました。全部見てから、  
 景色のよい所で晝食を食べました。さつまい  
 の代用食でした。飛驒山脈は、とてもきれ  
 でした。十二時に集合して、歸る事になりました。  
 歸道は坂なので、とても、樂なりました。途中で寮  
 とくに別れました。西尾寮へつくと、時半ごろで  
 した。とてもつかれたやうに思はれました。



はいるだけつめて見ました。が後にまた  
たぐさん残つてしまひました。をり  
よとオート三りん車で乗つて来たをど  
さんがしんせつにもつんで行つてあげま  
しやう。とのこつたのを全部つんでくれ  
ました。僕は心がすーつとしました。歸へり  
は荷物を持つてゐるのでばらばらで歸  
へりました。雨はまだしきりに降つてゐま  
す。僕はこちらへ来た夕方方の事を思ひ出  
しました。ちようどこの位の荷物を持つ  
て雨の中を立野ヶ原へ向かつて行つたな  
あ立野ヶ原についた時頭からみなやぐを  
出してゐるので大笑をした事など後か  
ら思ひ出せました。ふと氣がつくと  
手に持つてゐるなつ葉が落ちさうにな  
つてゐるのでたんおろして全部やりな  
ほしをする事にしました。しばらくは  
してから行かうとする。と一等終りの岩  
倉君が来たので二人でかついで行く事  
にしました。高宮橋を渡ると福光の町が  
目にとみるやうに見えました。少し行く  
と六年生が来て荷物を持つてくれました。  
僕はなんだかなきたくなるやうなへんな  
氣持になつてうれしくなりました。しかた  
がなくなりました。六年生はこくらうさ  
ま。ありがたういいます。といつてくれ  
ました。晝は理科室でたべました。おなか  
がすいてゐたのでとてもおいしかったです。  
午後寮へ歸へつて日記を書いたり本  
をよみながらたつにあたりました。夕  
食にお芋が出ました。夜々えまをやいた  
べました。とてもおいしかったです。

十一月二十六日 (月曜) 曇 河野

今日は二日目の授業だが、六年は、山田村(野菜運び)に行った。男の先生方も全部

やった。三部五年は、加藤先生と、西倉庫の整理をした。まづ、さ

を牛方(寄せた。か)の俵を牛方に(寄せた。か)の俵

いた上に芋を乗せた。次に、しゃ

鍬をリレー式でほかの場所へう

た。その次にリレー式で乾

薪を外(出した。又)前、芋

に敷いて置いた長い薪も

た。大根の葉の青いもの

たのしさをわけた。もうく

かけて、とてもくさいのがあ

もうほとんど黄色くなくて



いらつし

尾寮の

つま芋

を敷

べるや

つし

いた

の下

出し

枯れ

さら

て、ずいぶん落ちてしまった。拾ひながら行つたので少し

おそくなった。午後、三部五年は、阿部先生といっしょに山田

村(車を一臺返し)に行った。途中、五人で引いて二つづつ

代る代るに乗って行った。乗るととても楽だったが、自

動車が来て、よけるのがたいへんだった。山田村の農業

會(行く)はんだ、側の方まがった。そのうちに、目つき

の農家(ついた)。その家のをちさんが柿を二つづつ下

さった。途中、歩きながらた。とてもおもしろかった。寮

(歸ると、おとう様がぼくの歸るのを待っていらつしや

た。おとう様が買つていらつしやした習字の草紙を五年

に一さつづつあげた。その後、東京の事や、こちらの事

等を話し合った。おとう様は、五時の汽車でお歸りな

なった。夕食後、阿部先生が、今日、ぼく達が車を歸し

十一月二十七日(火曜) 曇 古藤

今日、起きて見る

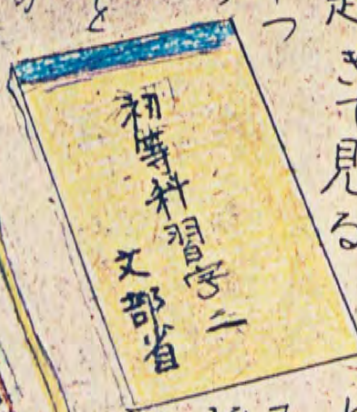
つしやつ

日目の

した

完成を

むづか



と石田先生が歸り

ついでに、午前中第三

授業で二時間目は國語で

二時間目は習字で、エ

あせい書と一

い

てゐると、こんど先匠がいらつしやつて耳あかを  
取つて下さりました。とてもさつぱりしました。夕食  
後、守口君のお姉様がいらつしやつて、僕達にみかん  
と焼芋を下さりました。とてもおもしろい。

れた。十二時十分になった。學校へ行く時、薪を持って行  
た。午後、三橋君と古藤君と、堀田とぼくとで本田寮  
こたつのやぐらを取りに行った。  
丸くて上に穴があいてゐる。こ  
らは始めて見た。先生は、木製  
助タンクで作ったのだらうとおっしゃ  
れに足をつけて、さっそくあつた。  
た。夕食後の掃除の場所がはつた。ぼくたちはせいほ  
う室の前の足わつ下を階段だつた。暗くなつたのではくだ  
けにした。寮へ歸つてから俳句帳を出した。その後加藤  
先生にお話をしていただいた。

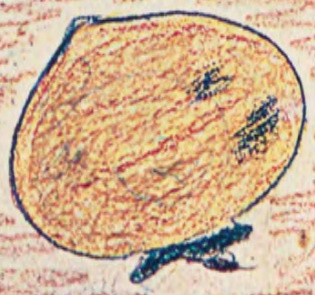


とても暖か  
つた。そ  
機のは  
んなやぐ  
見ると、

十二月二日 (日曜日) 粟 古藤

十二月一日 (土曜日) 曇雨 河野  
朝、ふとんをつむ場所をかへた。授業は、第六日目をした  
一時間目の算数は、五分位でやめた。女子が、東太美村  
へ野菜取りに行くからだ。ぼくたちは、塩運びに行った。  
福光橋のたもとの配給所へ行くとして休みだったので、明日  
行く事にして、歸つた。二時間目は寮へ歸つた。西尾さん  
んのれん炭にあたりながら、國語をした。七、柿の豆  
をならつた。その後は、自由だった。そのうちに四年生  
歸つて来た。今日から、起床もおくれたので、晝食も

今日は六日目の授業も、終つたので、休養日です。  
朝食の後、さいほう室の座をかへました。十  
五人づつ一れやにすわりました。午前中は寮へ  
歸りました。雲が降つて、寒かつたので、こたつを  
しました。午後、寮へ  
たつへあたりながら、日  
よした。ぬむくなつたの  
やめで、いまひまいました。  
西尾さんが、柿を一つづつ  
ました。とてもぶよぶよ  
いでいた。夕食の時、密柑が  
ました。皮がとても、かたいでいた。  
寝る前に、西尾さんがお風呂をたつて下さつたの



歸つてこ  
記を書き  
で、途中で  
三時ごろ  
くださ  
でおいし  
二つづつあり

のではいりました。とても暖たかっでいた。きれいに洗ったものぞとでもさっぱりしました。

十二月七日 (金曜日) 曇雨 河野

今日は第五日目の授業をした。加藤先生が病気で  
ねていらつしやるので朝食後、荒木君とぼくとでそ  
のこばんを持って行つた。二時間目の算数は  
は自習した。

八から十二まで  
やらをならつた。  
生から十二月の  
紙を書くやうに  
た。四時間目の國史は、鎌倉武士の源氏と平家とな  
らつた。晝食は理科室でやった。寮歸つてから本を讀  
んだり、日記を書いたりした。夕食の時、牛肉のはいつ  
たおつゆがあつた。寮歸つてから、加藤先生の晝と夜  
のこばんを石田先生と近藤先生がにぎつて三つつぼ  
く達に下さつた。その後、近藤先生が下さつたエビオス  
を八つぶのんだ。ねる前に西尾さんのお風呂へ入れて  
いただいた。とても暖くて、いい氣持だつた。



十二月八日 (土曜日) 曇雨 古藤

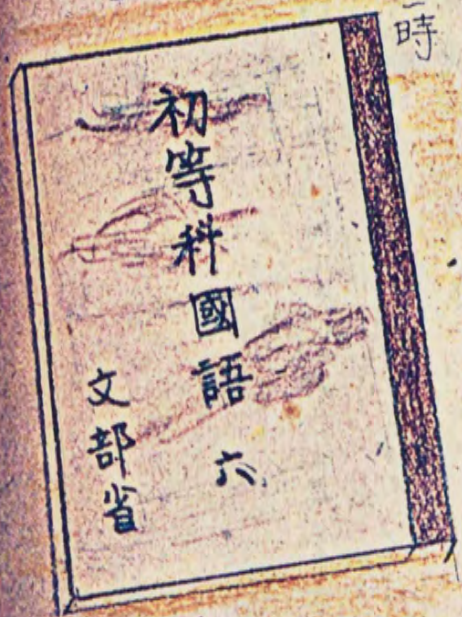
今日は思ひ出の大詔奉返の日です。もう敗れて  
しまつたのでぬもん文も出せず六日目の授業を  
しまつた。二時

語で十

やといふ

ならひま

二時間目



間目は國  
三の元日  
俳句と  
した  
三時間目



は、理科算數で加藤先生が病氣なので自  
習をいたしました。四時間目は日記を書きました。  
一午後は寮へ歸りました。ヤーン本を讀んで  
り。こたつへあたりました。三時半ころ、先生方  
は明日の用意を學校へ行つてしまひました。  
夕食後、エビオスを六つふいただけでした。

十二月十三日 (木曜日) 晴曇 河野

今日は、第四日目の授業をした。一時間目は、女子が米運びに行ったので、ぱんいつらん室で戦争の事を書いてある本等を焼いてゐるので

とても暖かった。図書館のをちと

那事變の本をもらった。二時  
俳句會をした。人のえらんたの

つつ持て、順番に呼んだ。喜門先

もはいつてゐた。ぼくは五点だった。その後はずっと自習だったので日記を書いた。寮へ歸る時、ちり紙にする



あたった。

んに支

間目に

を一枚

生の俳句

本を二三とづつ持って歸つた。寮でこたつにあたり、  
た。三時頃、西尾さんが下さった柿を一つづつ食べた。  
とてもおいしかった。その後、喜門先生に三家三  
勇士の本を讀んでいただいた。夕食の時、ぶりが出  
た。斎藤先生が、そのぶりのねだんをお話して下  
された。半匹、百六十圓で、ぼく達のたつた一切は三  
圓だと聞いて、びっくりしてしまった。寮へ歸つてから  
エビオスを六つづつのはんだ。ぬる前に、西尾さんのお  
風呂に入れていただいた。とてもいい氣持だった。出  
た着から、占呼をしないでおいた。

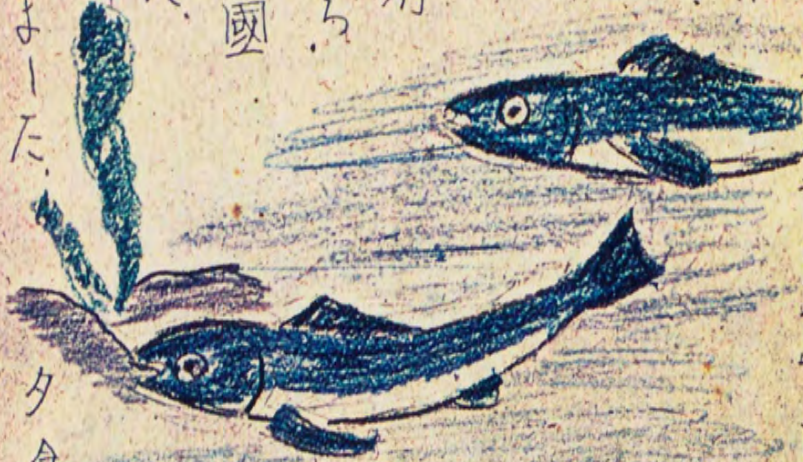
十二月十四日（金曜日）雨 古藤

今日は、第五日目の授業の日です。圖書  
館が使へぬので  
へ歸つてまいりました。  
は先生にたのま  
う。郵便きよく  
手紙を出しに行  
ました。歸つてから  
記を書きこました。國  
の自習もまいりました。

午後も寮へ歸

て、こたつへあたりました。

は、ゆわいの煮たのがありました。とても



夕食に

寮僕にき日語

おいしいでした。夕食後、三家三勇士の本を  
讀んでいただき、きました。とてもおもしろい  
でした。こんどひまがあつたら、又何かの本  
を讀んでいただくか、うと思ひました。

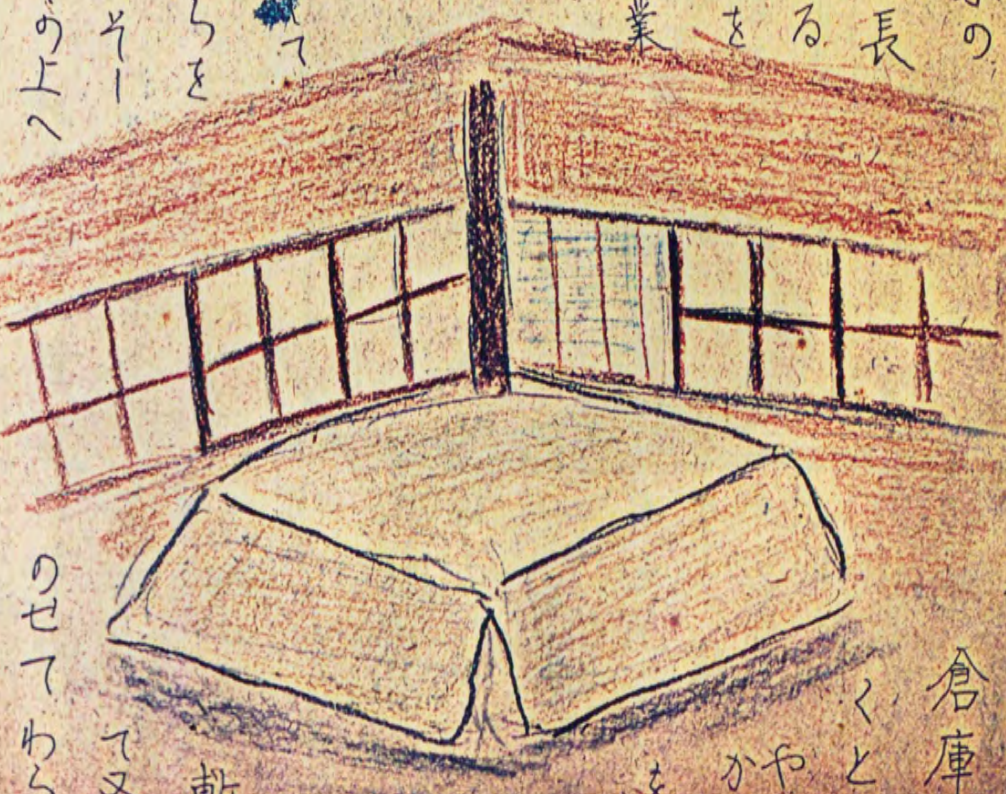
十二月十九日 (水曜日) 雪霰時々曇

今日は第三日目の授業だが、四年以上のゴムくづみ  
長ぐつを持ってゐる人は、東太美村と西太美村と  
廣瀬村へ、野菜や、わらや、わ  
つを運びに行ったので、持てゐ  
者は、図書館で自習をした。一  
目に、四年以上でこちらに残った  
西尾寮の倉庫から、大根を三本  
の後、火ばちにあたりながら、まん画の本を讀んだ。三  
時間目頃、廣瀬村へ行った四五年が歸つて来た。長ぐ  
つを持ってゐる西尾寮の人が運んで来た薪を運び入れ  
た。書食の時、おつゆの中に、岩丸先生のおみやげの牛  
肉がはいつてゐた。午後は、寮へ歸つて、こたつにあたりなが  
ら、日記や葉書を書いたり本を讀んだりした。大坪  
君のうちから送つて来た薬を五つづつのんだ。なんだ  
か、青のりのふりかけに、た味がした。夕食は、岩丸  
先生が元氣でお歸りになったお祝ひに、白米に、いか  
とお芋のはいつたおつゆだった。寮へ歸つてから、宮本  
さんが作つて下さった山芋のおだんごのはいつたおつ  
ゆをのんだ。暖くてとてもおいしかった。



時間  
ない  
者は

十二月二十日 (木曜日) 曇時々晴古藤  
今日は第四日目の授業の日だった。午前中  
は西尾寮の  
の大根に長  
つておける  
うにわらをも  
ぶせる作業  
しました  
最初すみ  
にある大  
根を移して  
そこにわらをも  
まきました。そ  
大根をその上へ  
をかぶせました。十一時ころやつと終りま  
した。図書館へ歸つてから地理の考査を  
しました。午後は寮へ歸つてこたつへあたり  
ました。あたりながら日記を書いたり葉書  
を書いたりしました。夕食にはぶりのにた  
おししおかづでした。夕食後は、西尾さんが  
僕達にお風呂へ入らせて下さりました。とて  
も氣物がよいでした。



倉庫

く  
と  
か  
を

敷

り  
せ  
て  
わ  
ら

て  
又

十二月二十日 (木曜日) 曇時々晴古藤  
今日は第四日目の授業の日だった。午前中  
は西尾寮の  
の大根に長  
つておける  
うにわらをも  
ぶせる作業  
しました  
最初すみ  
にある大  
根を移して  
そこにわらをも  
まきました。そ  
大根をその上へ  
をかぶせました。十一時ころやつと終りま  
した。図書館へ歸つてから地理の考査を  
しました。午後は寮へ歸つてこたつへあたり  
ました。あたりながら日記を書いたり葉書  
を書いたりしました。夕食にはぶりのにた  
おししおかづでした。夕食後は、西尾さんが  
僕達にお風呂へ入らせて下さりました。とて  
も氣物がよいでした。

折



十二月二十五日

(火曜日)

曇

河野

今日は、大正天皇祭なので休養だ。朝、加藤先生の牛乳を水口牧場へ取りに行った。朝食後、図書館で少し火ばち

ら寮へ歸

つにあた

日記を書

き讀んだ

書食の時



あたってか  
った。こた  
りながら  
いたり本  
りした。  
がりが出

た。午後、寮へ歸ってこたつにあたった。本を讀んだ。いろいろな話をした。夕食後、學校で掃除をすま

して歸つてみら、こたつにあたり、講談社の繪本を讀んだ。今日は、クリスマスだだが、外國の行事なので、僕達はそれについては何もしなかつた。

十二月二十六日 (水曜日) 晴 古藤

今日は、二日目の授業がありません。

一時間目は、國語で、源

氏と平家

をか

く

を

目



士の巻狩をし

は國史で

時間しや

らべました。三時四時間目は自習をしま

した。午後は寮へ歸つてこたつにあたりな

から、日記を書きました。夕食後、先庄から

山中鹿ノ助の本を讀んでいた。たまに

も愉快でした。

十二月三十一日 (月曜日) 雪曇 河野

今日は午前中、大掃除をした。九時頃か  
時頃まで、国民学校や、図書館を掃  
僕達は、裁縫室の前の廊下、階段をし  
つもは、はうきではくだけなのだが、今  
やうきんできれいにふいた。その後寮  
掃除をした。自分達の荷物を整理  
てから、念入りに、はいたり、ふいたりし  
ることでもさっぱりした。書食後、音楽  
月一日の歌のれん習をした。その後、杉



ら十  
除した  
たい  
日は、  
の大  
をし  
た。終  
室で一  
浦さんか

ら新を運ぶはすたたか、雪が降るでぬたのでや  
らなかつた。寮へ歸つてこたつにあつた。西尾さ  
んに、豆餅をいたたいた。とてもおいしかつた。午  
後、先生方が、福袋に入れる物を買ひにいら  
しやつたので、寮にいらつちやらなかつた。夕食後、  
西尾さんのお風呂に入れていたたいた。とてもいい氣  
持だつた。その後、西尾寮全体に來たプレゼント  
をあけた。中には、いり豆、南瓜のたねをいいた物、干  
芋、あめ、するめ、かきがた、せんべい、うそな、み  
んな、分配した。いり豆と、するめ、かきがた、せんべい、うそな、  
とみんなたべた。おほか様方の心がこもてゐるの  
だと、鬼ふと、とてもありがたかつた。たゞ終つた頃、傳  
電したが、しばらくすると、すぐつた。その後、石田先  
生と、なぐなぐをした。いいなぐなぐは、三日の福つりと時  
にやるのださうだ。もう今日で昭和二十年も終る。夜  
の点呼の後、その返省をした。



荷蘇藏